

国立天文台・天文情報センター・特別客員研究員 中桐正夫

*登録有形文化財に答申された国立天文台正門

2013年11月15日の文化庁文化審議会で国立天文台の7件の建造物が登録有形文化財として文部科学大臣に答申された。平成25年度の建造物の登録有形文化財は220件であった。文化庁から平成25年11月15日に発表された報道発表の主な事例の2番目に国立天文台の7件が紹介されていた(写真1)。

② 我が国の天文学の発展を牽引した施設群

国立天文台ゴーチェ子午環室^{しごかん}ほか 東京都三鷹市

東京天文台を前身とし、大正年間に現在地へ移り、整備された天文台施設。子午環と呼ばれる望遠鏡を覆う建物で、一体的に使用された子午環標室2棟も残る。このほかレプソルド子午儀室などの特徴的な建物も登録し、既登録の第一赤道儀室などとともに施設全体の保存を図る。



写真1

今回登録有形文化財に登録されたものは次の7件である。

- 1) レプソルド子午儀室(大正14年)
- 2) ゴーチェ子午環室(大正13年)
- 3) 第一子午線標室(大正14年)
- 4) 第二子午線標室(大正14年)
- 5) 旧図書館及び倉庫(昭和5年/昭和36年改修)
- 6) 門衛所(大正13年)
- 7) 表門(大正14年)

この号では7)表門について述べる。国立天文台の前身の一つである東京大学東京天文台は1888年(明治21年)に東京大学天象台、海軍観象台、内務省地理局が統合され海軍観象台があった当時の麻布区飯倉狸穴に設置された。麻布の東京天文台の敷地は約2500坪であり、そのうち900坪は急峻な崖地であった。また東京の中心部であり、空が明るくなりより良い観測条件を求め空の暗い広大な土地を明治42年に当時の三鷹村に7万坪余りの土地を得て、大正3年から移転工事が始められた。三鷹の土地への移転に当たって、初めに建設されたのは官舎、合宿であり、1号官舎が高等官用として大正4年に建設され、この建物は当初は東京天文台の工事にあった関係者の宿舎として使用されたようである。

観測施設などとして大正時代に建設された建物が表 1 である。

名 称	構 造	延面積 (m ²)	竣工年月日
太陽写真儀室	木造平家	143	大正 9. 9. 11
第1赤道儀室	R C	48	大正 10. 3. 31
連合子午儀室(1)	木造平家	26	〃
〃 (2)	〃	26	〃
*本 館	〃	1885	〃
ポンプ室	〃	17	大正 11. 3. 31
時計庫	木造平家, 地下1階	33	大正 12. 7. 1
子午環室	R C	129	大正 13. 5. 9
天体写真儀室	〃	43	大正 13. 6. 30
卯酉儀室	〃	7	〃
門衛所	木造平家	66	大正 13. 12. 22
第2赤道儀室	R C	7	〃
油 庫	〃	3	大正 14. 2. 28
子午儀室	〃	36	〃
子午線標室(1), (2)	〃	34	〃
塔望遠鏡室	〃	331	大正 15. 3. 20
大赤道儀室	〃	238	大正 15. 3. 25

表 1

表 1 の中で現在残っている建物は、1) 第 1 赤道儀室、2) 子午環室、3) 門衛所、4) 子午儀室、5) 子午線標室(1)、(2)、6) 塔望遠鏡、7) 大赤道儀室の 7 件である。

この表の中には表門が記載されていないが、大正 14 年 2 月 6 日の「東京天文台正門電灯及門衛所電灯用引込ケーブル埋設工事設計図」があることから大正 14 年には表門は存在していた。大正 13 年に建設された門衛所と一体で建てられたと推定される。

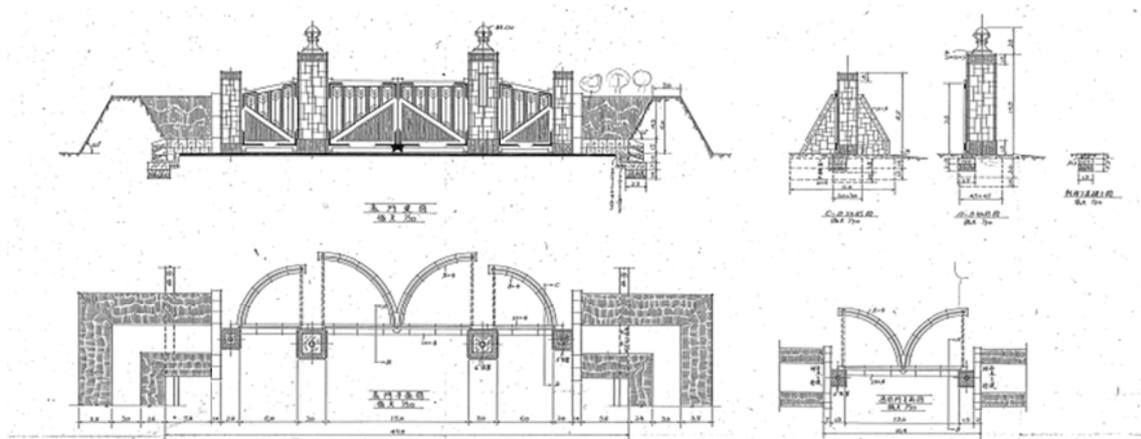


図 1

図1が表門の設計図である。立面図と平面図を拡大したものが図2である。

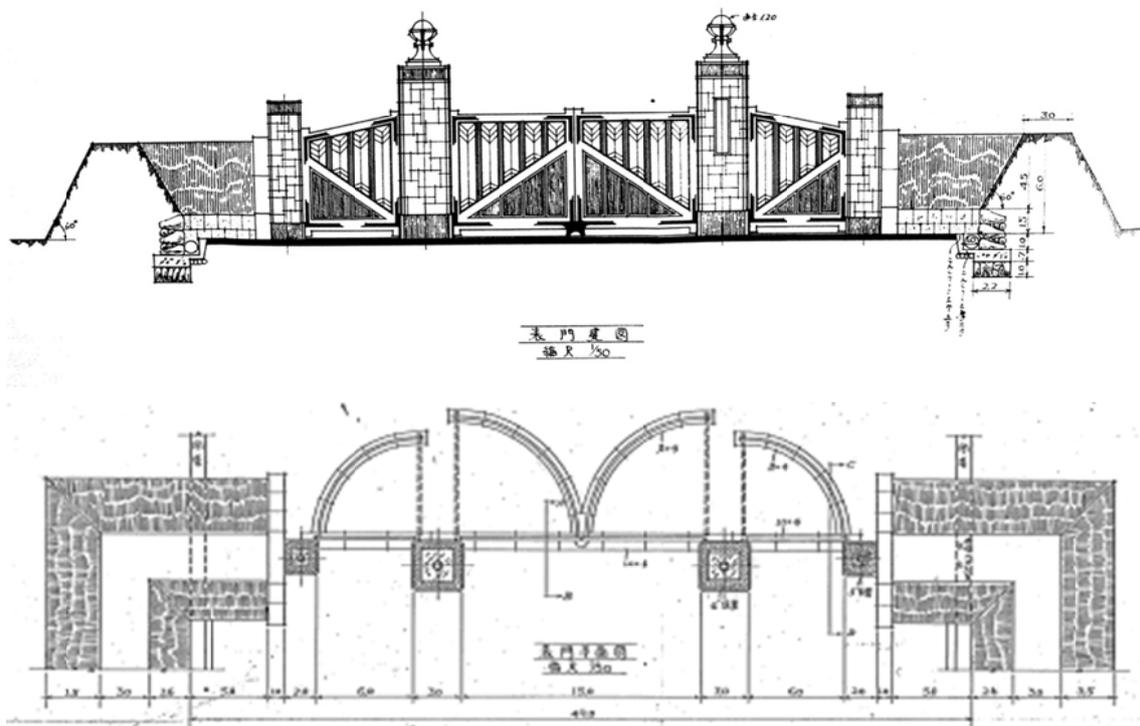


図2

表門は、筆者の知る昭和時代には図2のような木製の扉であったが、平成5年に鋳鉄製の門扉に取り換えられた。鋳鉄製の門扉に変えられたときの設計図が図3である。

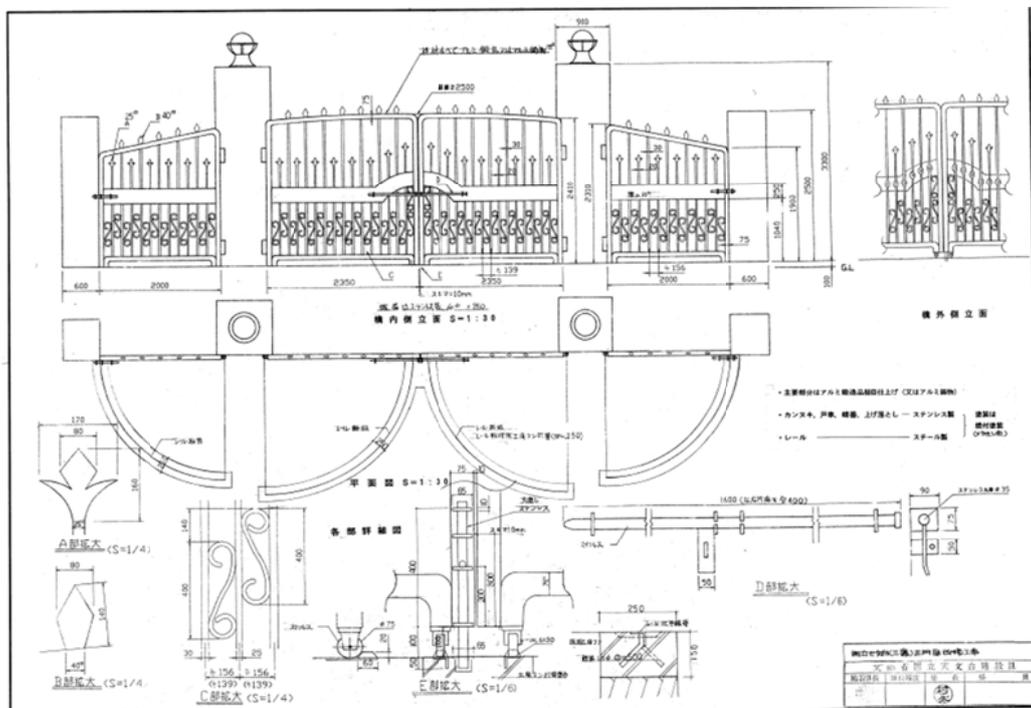


図3

筆者の知るもっとも古い表門が写ったのが写真2である。



写真2

写真2には、同時に登録有形文化財となった門衛所、その後ろには昭和20年2月に焼失した本館が写っている。写真3は右の門柱に東京天文台の門表がかかった表門である。

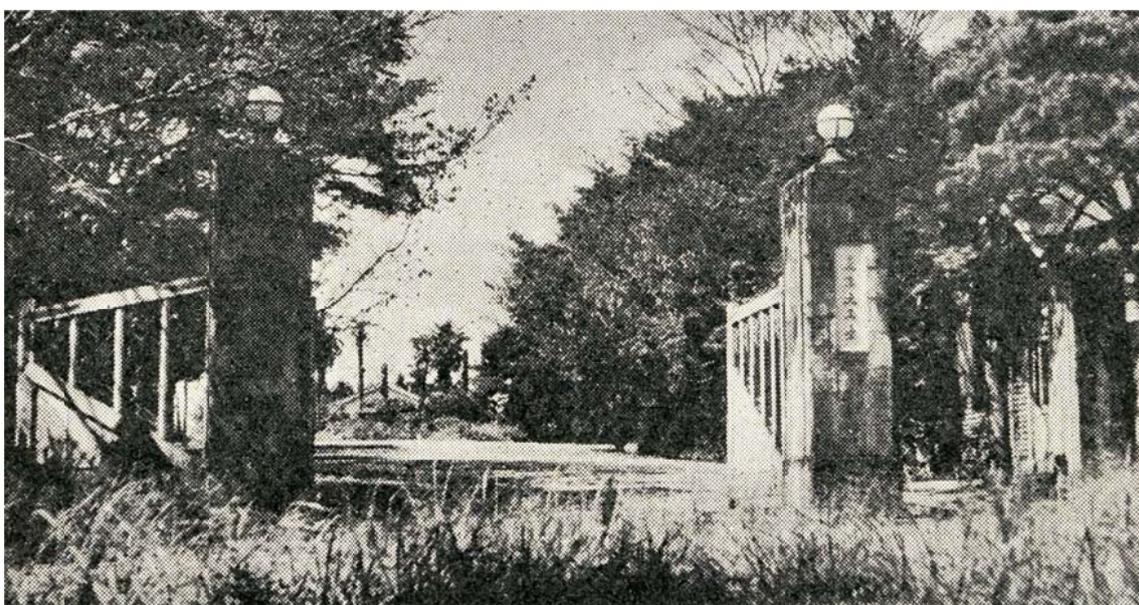


写真3

現在の表門(写真4)には、国立天文台、東京大学大学院理学系研究科天文教育研究センター、総合大学院大学天文学専攻など3つの門表がかかっている。



写真4

これらアーカイブ新聞の記事にお気づきのことがあれば、編集者中桐にご連絡いただければ幸いです。中桐のメールアドレスは、arcnaoj@pub.mtk.nao.ac.jp